

万里の長城から仙岩山の方角を見下ろす。自然の造形美にただただ感服。



見下ろす耶馬溪もいい

東耶馬溪

八面山の山頂から、万里の長城から。見上げるのではなく、耶馬溪の中に分け入り、景色を見下ろしてみる。耶馬溪を再発見してみませんか。

南側の県道44号沿いから見ると、上部は卓状で、急峻な崖を持つメサ地形の特徴がよくわかる。



八面山の景

はちめんさん

どこから見ても同じ形の八面山だが、南側の山麓から眺めると、見慣れた優しい山容とは違う表情が見られる。昔は竹が多かったことから箭山とも呼ばれる。山上部には、大宝元(701)年、法連上人により開山された箭山神社上宮が鎮座する。社殿の北にある鷹石は御神体で、その一帯の巨石は古代祭祀が行われていたといわれる。英彦山と国東八郷満山の中継的役割をもつ霊山であり、山中には巨石信仰の謂れをもつ石が点在する。(Pあり)



「天空の道展望所」から中津市街を望む。

地藏峠の景

ぢざいとうげ

鹿嵐山の北西に位置する峠を地藏峠という。お地藏さんと休憩所がある。見所は峠から20分ほど登った先にある岩稜帯。万里の長城といわれる岩尾根からはこれぞ耶馬溪という光景が眼下に広がる。岩稜帯の最端までは切り立った尾根を歩くので無理は禁物。(Pあり)

轟の景

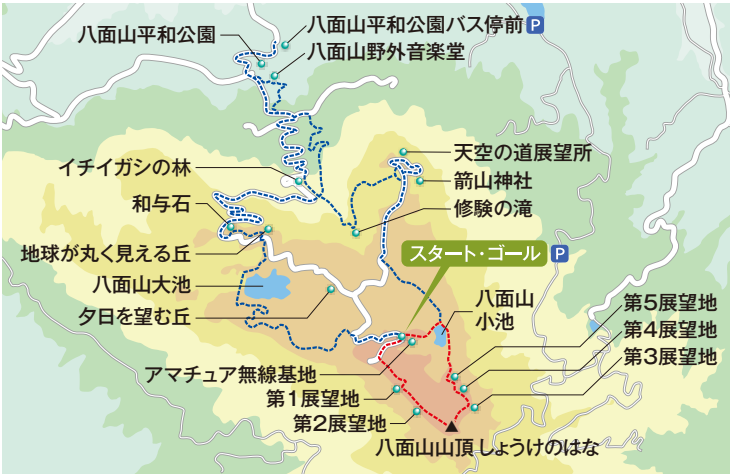
とどろ

裾野を流れる東谷川が、洪水の際に岩にぶつかる音が峰々にこだましたことからこう呼ばれる。凹凸のある岩峰は東から轟峰、奥峰、下峰の3峰からなる。国道500号沿いの東谷簡易郵便局から2キロほど先に轟の景。すぐ先に地藏峠への入口がある。(Pなし)



地藏峠登山MAP

- 国道500号沿い「鹿嵐山登山口」の看板から入り、3kmほど先に駐車場あり(トイレなし)。
- 登山道入口の看板から小さな橋を渡り山道へ。
- 「万里の長城」は切り立った岩稜帯。雨天時は足元が滑りやすい。天気を選んで登ろう。初心者だけの入山は避けよう。
- 岩稜帯の最端へは万里の長城の先にある、「鹿嵐山山開登山順路」の看板を右へ下る。
- コースタイム：登山口→30分→地藏峠→20分→万里の長城→15分→最端展望所(往復：約2時間)



八面山登山MAP

- ここでは気軽に周回できる山頂探訪コースを紹介。
- 小池入口の駐車スペース(テーブルとベンチあり、トイレなし)をスタートし、1番奥の駐車スペースに降りてくる右回りで周回。
- 散策マップは中津市のホームページからダウンロードできる。山中の各遊歩道入口にも設置されている。
- コースタイム(山頂探訪コース)：登山口→10分→小池→30分→山頂→20分→ゴール地点→3分→登山口(1周：約1時間)

-----：山頂探訪コース ：その他の一般登山コース



中ノ迫の景

No.18

県道44号を「八面山神護寺奥の院」の看板から入ってしばらく登ると前方に奇岩が見えてくる。車道はやや不安になる狭さで落石も多いが、秘境感溢れる。奥には和氣清麻呂伝説が残る阿羽羅堂がある。この地を訪れた和氣清麻呂は、洞窟から湧き出る霊水で、痛めた足を治した。従者の阿羽羅が歌に残している。「君がため祈る箭山の岩清水汲みとらしめよ阿羽羅の願」(Pあり)



引水の景

No.20

静かな引水集落の中を進むと、目の前に突如現れる日本昔ばなしに出てくるような小山。轟の景の先、引水迫延命水の看板を過ぎた次の角を右折し、すぐのY字路を右折後しばらく進むと正面に見える。戻って延命水も汲んで帰りたい。(Pなし)



仙岩山の景

No.23

県道664号沿いに「仙岩山自然散策展望台」の看板があり、山道を少し登ると岩場の上に展望地がある。岩峰群を正面に望む景観は圧巻。中腹にある宝陀寺奥の堂へは、山麓の仙人入口バス停から徒歩15分ほどで鳥居に出る。鳥居からさらに登ると岩窟に建てられた奥の堂がある。干ばつ時には汐汲と称し、多くの村人が雨を願い参詣していた。仙岩山へは、お堂の右手から山道を入るが岩場で危険。(Pなし)

高野堂の景

No.22

本堂の裏をめぐる周遊道は、間近に鋭い岩峰を望みながら岩場を歩くことができ、趣がある。危険な箇所もあるため慎重に。入口に周遊案内図がある。江戸中期に弘法大師の石像が安置され、大師信仰が流行。遠方からも参詣者が訪れ、山麓は菓子や酒を振る舞う店で賑わったという。その後も盛衰を繰り返しながら昭和初期まで宇佐の名所として人気を博した。県道664号沿いの古い石橋の奥に仁王像が見える。(Pなし)





山瀬の景
やまぜ
No.30
県道28号の柿瀬橋の北側に並ぶ3峰。対岸の耶馬溪ダム湖畔より望める。ダム湖の北には桜と紅葉の名所「溪石園」がある。(Pなし)

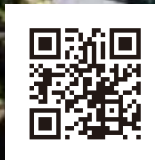


潜岩の景

No.31
津民川に沿って奇岩がそびえ立つ。いたるところに大小の洞穴があり潜岩と呼ばれ、その間から清水が湧き出る。背後には修験の山、桧原山があり、山腹の正平寺では700年以上に渡り継承されてきた御田植祭「桧原マツ」が行われる。切り立った岩壁は津民小学校から見られる。(Pなし)



落合の滝の景
おちあひ たき
No.34
深い緑の滝壺に、真っ直ぐに落ちる水柱の白さが際立つ。周囲を美しい節理の崖壁に囲まれ、静かに滝見できる。県道2号の左手に滝入口の看板がある。河川フルの駐車場より徒歩5分ほど。(Pあり)



桧木の景

No.33
県道646号を萩原バス停から左折し、萩原氏宅前バス停を過ぎ少し上がった辺り。正面には多くのウメが植えられた大岩壁がそびえ、振り返ると山々の山腹から奇岩が飛び出ている様が見られる。(Pなし)

桧木の滝の景

No.32
長岩城の城主、野仲氏の遊宴の地だったといわれるのも頷ける水と苔むした岩と緑豊かな一帯。「滝おり口」の看板から川へ。対岸の鎖を伝った先で滝壺を鑑賞できるが、現在は対岸へ渡る堰が崩壊しており注意が必要。遊歩道の補修計画がある。2019年3月現在(P・トイレあり)



のこいわ 古峠の景

NO.36

古峠は、経読岳と雁股山をつなぐ稜線のちょうど間にある。この尾根は福岡と大分の県境で、九州自然歩道が整備されている。登山口からしばらく舗装された道を登っていく。切り開かれた杉林を抜けた先の分岐を右に取り、ひたすらまっすぐ登る。しばらく登ると前方に尖った岩が見えてくる。道が広くなり、登りつめると古峠。峠から左に向かい、古峠の景へ。最初の岩峰に出ると眼下に大きな窟が見える。さらに進むと、窟の上に出られる。風化した岩峰群を見下ろす景観は、耶馬溪の上に乗っている感覚になり足がすくむほど。

鋸岩へは古峠へ戻り脇の林道を経て登り返す。尾根伝いは通行禁止。(●あり)



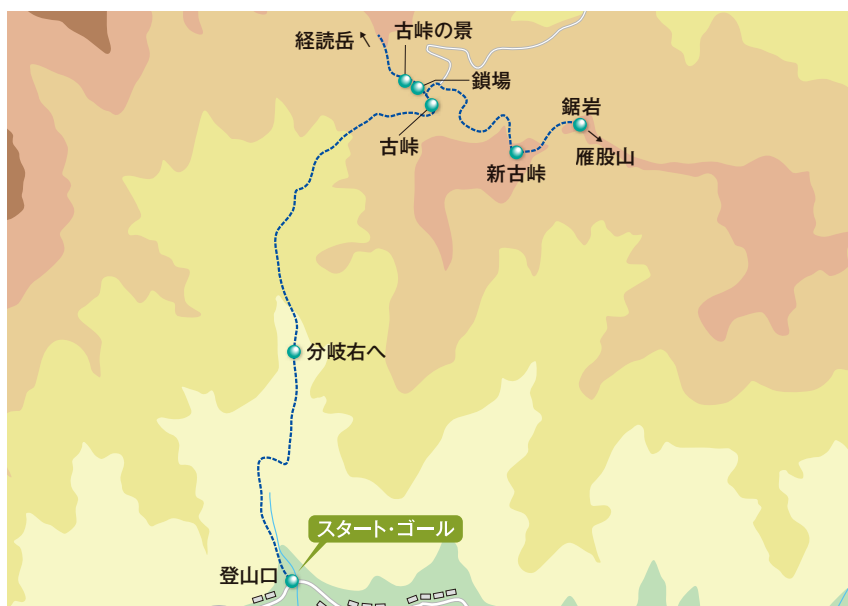
かわらぐち 川原口の景

NO.35

落合の滝から2キロほど先の右岸にそびえる一帯で、凝灰角礫岩が差別侵食されてきた岩峰。大分県天然記念物ゲンカイツツジが群生する。この景の奥に続く山中には、地形を活かした奇岩の要塞、長岩城跡があり、石壁、石積櫓などが数多く残る。全国的にも貴重な中世山城の遺構である。(●トイレあり)



鋸岩・古峠登山MAP



- 県道2号沿いの永岩小学校跡から1kmほど先の右手に2台ほどの駐車スペースと古峠の看板がある。
- 古峠から左へ取ると古峠の景展望所、右へ取ると鋸岩へ。鋸岩への山道は崩壊しているため、林道へ迂回する。
- 稜線の岩場には鎖を伝って登る。十分に注意が必要。
- コースタイム：登山口→30分→分岐→45分→古峠→15分→古峠の景(往復：約3時間)